

第 255 回(1 月)

新・情報通信システム—95 年の革新

NTTデータ通信株式会社 理事 経営企画部長 大橋純氏

90 年代に入ってから、産業界の情報化の目的に変化が出始めた。従来は企業単位、部門単位での合理化・省力化に重点が置かれていたが、これらが投資効率の壁に突き当たるとともに、新たな競争力強化・体質強化のためのシステム構築に変わってきた。一つの現象として、従来の枠にとらわれず、商品の流通サイクル単位で結ぶとか、製造・販売・物流という従来個別にシステム化していたものを組織の統合も含めて、組織を横断した情報活用に変えてきている。

研究開発部門においても、従来の R&D から RDES (Research Development Evaluation Support) に成長してきている。

実務的には CALS (Computer-aided Acquisition and Logistics Support) すなわち、生産・調達・運用支援統合システムの導入が通産省支援のもとで進められている。これらを構築する場合、スタート時の人材を各部門から調達しなければならず、多忙を極めている現場最前線からどうやって人材を出してもらえるかがキーとなる。